



未来に向けて 必要なもの

考える力

関西学院大学 かい ともひこ
 人間福祉学部 教授 甲斐 知彦

人工知能に関するニュースが毎日のように飛び込んできます。野村総合研究所は2015年12月、英オックスフォード大学のM・A・オズボーン准教授らとの共同研究で、日本の労働人口の約49%が就く職業が10~20年後にはAIやロボットによって技術的に代替できるという推計結果を発表しています(1)。すなわち、人間の負担を軽くするためのテクノロジーが今や人間の仕事を奪うのではないかと世間を騒がせているのです。また、昨年、血液がんの診断で医師に助言し、その患者を救ったことで有名なAIのWatsonは様々な分野でその力を発揮しています。先日参加したIBM Watson Summit 2017では人が書いた文章からその人の性格を診断し職業のマッチングに活用するなどの話があり、その活用範囲はますます広がっています。そもそも我々人間は外部からの情報(入力)を自分で評価・判断し、行動(出力)してきました。そして、この「評価・判断」をする際のさしとなるものがその人がこれまでに身につけた哲学や知識です。しかし、人工知能の登場によって我々が受け取る情報には既に処理がなされ、その指示に従ってさえいけば全てが上手くいくような世界がますます身近に迫っているように感じられます。こうなると我々が身につけた哲学や知識は意味を持たなくなってしまうのではないかと不安になります。この先、人工知能の指示に素直に従っていくのか、あるいは自分という軸をもってその指示に問かけ行動を決定するのか、このような問いがこれからの時代には非常に重要な意味をもつようになってくるのではないかと考えています。

また、最近、デザイン思考なるものがビジネス界では注目を集めています。企業にとってもこの時代を乗り切るには現状維持は許されず、イノベーションを絶え

ず求めなくてはならなくなっています。そんなイノベーションを起こすための一つの手法がデザイン思考です。イノベーション・マネジメントの専門家によると、デザイン思考のデザインとは、その語源はラテン語のdesignareで分離すると、de(否定)+signare(形)となり、「形を、すなわち今あるものを当たり前に受け入れるのではなく疑問をもつことから始める」という意味だそうです。企業の寿命は20~30年といわれていますが時代の速さに負けないためにも「今を疑う」姿勢が必要なようです。

このように、今、我々に求められているものは、自分の軸を持ち考え抜くことやすべてに疑問を持ち考えて行動することです。人の学びについて、Lombardoらは、「経験70%、フィードバック20%、読書・研修10%」と経験の大切さを述べています(2)。我々が行ってきた野外教育はまさにこの経験から学ぶことのできる場であり、変化する自然や共に生活する仲間とのなかで常に考え行動することが求められる場です。そのため、今求められている「考える力」を醸成する、とても大切な場であるといえます。大阪YMCAはこれまでもキャンプなどを通して、この貴重な「経験」を若者に数多く提供されてきましたが、これからはこのことがますます意味を持つ時代を迎えます。なお一層、次代を担う若者に多くの「経験」を提供して下さることを期待しています。

- (1)…株式会社野村総合研究所：
 日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能
 NEWS RELEASE 2015.12.02
https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx
- (2)…Michael M. Lombardo and Robert W. Eichinger：
 Career Architect Development Planner
 4th Edition, Lominger International, 2004

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

YMCAでこころとからだにいいことDAY

～大阪YMCA ウェルネスDAY～

ウェルネス事業 拠点・広域開発事業グループ長補佐 すがひであき
菅 秀晃

『大阪YMCA100年史』に、大正2年(1913年)頃の大阪YMCAのウェルネス活動が紹介されています。明治時代の体育プログラムの中心は柔道と剣道でしたが、当時、北米YMCAで体育プログラムとして考案されたばかりのバレーボールとバスケットボールが、大阪市民の体力向上のために紹介されたとの記録が残っています。

4月29日、「こころとからだにいいことDAY!!」と題して、ウェルネスDAYを開催しました。ウェルネスDAYを通じて、自分の身体を知り、自分の可能性を知り、人間的で自分らしい生活を送ることに繋がれることを願って企画した活動です。

当日、500人以上の参加者が南YMCAでの活動を楽しみました。「プールの遊園地」や「サップ体験」、「アクアビクス」、「LET'Sコーディネーション」など、普段のプールやホール(体育館)だけでなく、教室や廊下までもが子ども達やご家族の方々の遊び場に様変わりしました。



立って漕ぐボード「サップ」を体験

フットサルやバスケットボールは、この日も大人気のプログラムでした

YMCAの活動は、直接的に課題を解決するだけでなく、どのようにして当事者に歩み寄り、人に仕える働きができるのかが問われます。これからも他者に仕えることができるよう、一人ひとりの健康を捉え、身体を動かす喜びを伝えていきたいと思えます。



「親子体操」でリズムを感じながら楽しくダンス。



「LET'S コーディネーション」で、教室に仕掛けられた7つの運動要素を体験。左が「パラバレーン」、右が「バランス」

YMCA水上安全プログラムの願い

～EAYUNアクアティック・サブコミッティー開催～

ウェルネス事業 アクア事業部 事業責任者 たきなかしんすけ
瀧中 慎介

東アジアYMCAアーバンネットワーク(EAYUN)アクアティック・サブコミッティーの「水上安全プログラムワークショップ」が、3月15日～16日、南YMCAにおいて開催されました。海外からは韓国、オーストラリア、台湾、国内からは熊本、神戸、横浜、東京の各YMCAから、合わせて30名のスタッフが集まりました。

各国の水上安全プログラムの紹介がなされ、日本と同様に海に囲まれた国であるオーストラリアでは、以前から水上安全プログラムが非常に活発に行われてきました。現在では国を越え、学校教育にプールがないアジアの国々においてもプログラム展開を行っていることが報告されました。

日本国内のYMCAにおいても、毎年、「水上安全キャンペーン」を実施しています。昨年度もYMCA主催で行われた着衣泳講習会には、11,000名を越える方々にご参加いただき、「自分の生命(いのち)を自分で守る」ということについて学びました。しかしながら、毎年水難事故によって大切な生命が失われるということが絶えません。「水難事

故を0にする」という目標に向かって、YMCAは国を越えて協力し、運動を強化していきます。



水上安全講習実践の様子
(船から重油が漏れた時に、隙間から顔を出して呼吸を確保するための訓練)

熊本地震から一年。進もう前へ。熊本未来笑店街

大阪YMCA公益協働事業 グループ長 みのうら しろう
箕浦 史郎

YMCAでは熊本地震支援募金期間を延長し、
現在も支援を募っています。

皆様の募金は、以下の活動に用います。

1 被災コミュニティの復興支援

地域住民の生活支援

2 被災者の復興支援

熊本YMCAの活動を通して継続的に市民の復興を支援
市民の心身の健康を支える活動
被災者の心のケア活動
復興を担うリーダーシップの育成

【募金期間】2018年4月30日まで

お近くのYMCA または 三菱東京UFJ銀行
大阪為替集中支店 普通預金 No.0230070
<名義>公益財団法人大阪YMCA
か:ザイ)オサカワイムシーエ

*通信欄に「クマモトフッコウ」と明記してください。
通信欄がない場合は、振込名義人の後に
「クマモトフッコウ」と入力してください。

(寄付金は、寄付金控除の対象となります。税額控除用の
領収書が必要な方は、後日、お渡します。氏名・住所・
TELをお知らせください。)

地震発生直後から、熊本YMCAは全国のNPO、企業、個人の皆さまと連携し、力を合わせて復興支援活動に取り組み、昨年10月31日まで熊本YMCAが運営する益城町総合運動公園と御船町スポーツセンター両避難所を運営しました。現在は、益城町木山仮設団地(220戸)と御船町木倉地区仮設団地(151戸)の「地域支援センター」事業として住民を見守り、支え、新たなコミュニティを形成する活動を行っています。熊本地震から一年を機に全国の皆様の支援に対し感謝するとともに、被災者の皆様と共に、未来へ向け、創造的復興をさらに一歩前へ進めるべく「熊本未来笑店街」が開催されました。復興記念パネルディスカッションでは、総務省理事官木村敬さん(前熊本県総務部長)、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事 栗田暢之さん、被災地の記録を撮り続けているフォトジャーナリスト安田菜津紀さんが登壇され、日本YMCA同盟山根一毅主事のコーディネートで、熊本YMCA、全国YMCAの支援を振り返ると共に、熊本地震が風化しない継続的な心の支援について話し合われました。現在仮設住宅で生活されている方は、未だ非日常の生活の中にあり、被災者の方の心は日常を望みながらも叶わない現状に揺さぶられています。そのことに対して、これからも支援が必要であることが確認されました。熊本地震から一年が経ち、物質的支援と共に、心の支援がより一層継続的に必要であることを感じました。



「ワイズの森・うなぎの森植樹運動」

野外キャンプ事業部 スタッフ おおさと よしえ
大里 由恵

5月14日、「ワイズの森・うなぎの森」植樹祭が高槻市神峯山寺の山中で盛大に開催され、ワイズメンズクラブの方々約60名、南YMCAわんぱくクラブ(小学1～2年生)51名が参加しました。

子どもたちは一生懸命にシャベルを使って穴を掘り、サクラやカエデなどの苗木を大切に植えました。「どれくらい大きくなるのかな?」「大人になったら見に来る」と、いつの間にか大切に植えた苗木に愛着がわいていました。

また、昨年に引き続き今年も宮城県気仙沼市で牡蠣や帆立の養殖を行っている畠山重篤さんにお越しいただき、木は森も海も川もすべてを良くしていることや、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」でも紹介された「森は海の恋人」という名の植樹運動を約30年行われているお話を聞きました。今回の植樹体験やお話を聞いて、子どもたちも野

外活動の中でよく目にし、触れる木に対して、自然の偉大さを感じるとともに自然を大切にしようという気持ちが芽生えていました。みんなで植えた苗木が育ち、川や海へ流れ出た山の腐葉土が魚の栄養となり、淀川の環境を整えることで、天然のうなぎが多く育つことを願っています。



6月は食育月間です!

たなか あさこ
YMCAたかつきあま保育園 スタッフ 田中 麻子

国の食育推進計画では、毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」と定めており、国、地方公共団体、関係団体が協力して重点的に食育の普及を行っています。

この機会に、食について少し考えてみませんか?

「食べる」ということは一生続けていく必要のある大事なことです。その中でも乳幼児期における食事は、生涯にわたる健康づくりの基礎になると言われています。そんな大切な時期を突きのあるものにしてもらおうと、YMCAたかつきあま保育園では、様々な食育に取り組んでいます。

その中でも特に熱心に取り組んでいるのは、野菜を育て、収穫することです。自然が多く恵まれた環境にあるので、プランターだけではなく、畑でも野菜を育てています。土を耕し、種や苗を植え、水やりをし、草をひいて…と愛情を持ってみんなで育てた野菜を収穫し、昨年度は人参やほうれん草を給食やおやつにして食べました。今は畑にじゃがいも・玉ねぎが植えられています。自分たちで収穫した野菜は、普段野菜が嫌いな子どもたちも喜んで食べます。

こうして自分たちで育てた野菜を食べたり、バランスのよい給食を毎日おいしく食べたりすることで、自然と栄養の整った食事を摂る習慣ができればと願い、職員で協力して日々の食育業務に取り組んでいます。



大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第290回 日 時…2017年6月16日(金)7:30~8:30

証 し…飯沼 眞さん
(大阪泉北ワイズメンズクラブ会員)

場 所…大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務

【TEL】06-6441-0894 【E-mail】info@osakaymca.org

第2回 六甲山YMCAに集まろう! 報告

六甲山YMCA グローバルラーニングセンター いしばしひでき
センター長 石橋 英樹

4月15日、晴れ時々雨という天候の中、ワイズメンズクラブ中西部によるYサ・ユース事業「第2回六甲山YMCAに集まろう!」が行われました。大阪YMCA国際専門学校^{いしばしひでき}の学生を含めた総勢46名の皆さんと一緒に、館内施設の整備や備品の清掃など多種多様なワークをすることができました。また、バーベキューと歌による交流会も大盛況でした。心をつなげて共に作業をしていただいた参加者の皆様に、深く感謝申し上げます。



ご寄付に感謝申し上げます

- 大阪YMCA Yボランティア(会員)の鉄谷明さんから、大阪YMCA国際奨学金のためにのご寄付をいただきました。頂戴しましたご寄付は、私費外国人留学生の経済的援助に用いさせていただきます。
- 故 今村一之さん(大阪YMCA Yボランティア(会員))のご家族、今村良子さんから、青少年育成活動支援のためにご寄付を頂戴しました。

ご支援に感謝し、ご報告させていただきます。

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2017年4月度報告・敬称略

【新規会員】

岡山 牧人
橋本 さき
部坂 仁

【継続会員】

飯沼 眞
石谷 瞳
今井 利子
入江 保夫
岩坂 二規
岩坂 正雄
岩田 晋
上田 乃生子
内山 雅文
宇野 義男
浦川 哲也
大藪 芳教
尾和 信孝
鍛冶田 雅弘
粕谷 和彦
加藤 貴尾
川添 貴子
北村 知三

【継続賛助会員】

株式会社朝日新聞社
大阪本社
共栄社化学株式会社
京王観光株式会社
コベルコ・キャリア・
ディベロップメント株式会社
株式会社サンケイビル
マネジメント
株式会社シェル石油
大阪発売所
双葉電気通信株式会社

藤井 英世
藤田 貴大
船本 あかり
ベンジャミン ミツダ
松浦 恵子
松倉 幸作
松下 徹
松野 時彦
松山 隆義
三浦 明
村上 徳光
山崎 太詩
吉田 清三
吉田 全孝
鷲谷 糸津子